

KINDAI KENCHIKU

# 近代建築

July

7

Vol. 79  
2025

特集 学校建築

監修 長澤悟

共創の学校づくり — 学校らしくない学校とは —



OSHIROXでは、独自の加工技術の組み合わせで、  
これまでにない世界にひとつのコンクリートの壁をつくります。



慶應義塾大学 Yagami Innovation Laboratory (YIL) (神奈川県横浜市、2025年3月竣工)

設計・施工/株式会社安藤・間

採用工法/ECP外壁:ハイブリッドカラーコーティング工法



徳島文理大学 高松駅キャンパス

設計/株式会社教育施設研究所 施工/西松建設株式会社

採用工法/ECP外壁:ハイブリッドカラーコーティング工法



(香川県高松市、2024年10月竣工)

事業内容 ▶ 世界で一つの壁を作ります。: ハイブリッドピーリング工法 (ウォータージェット、特殊ピシャン、研ぎ出し) 責任施工  
ハイブリッドカラーコーティング工法 (特殊塗装) 責任施工 含侵シリカコーティング剤及び、特殊塗料、特殊コーティング剤製造販売

株式会社  
**OSHIROX**

代表取締役 牧野 幸之

【本社・ショールーム】

〒559-0011 大阪府大阪市住之江区北加賀屋4-1-55 TEL:06-6690-7372 FAX:06-6690-7373

【工場】

〒653-0032 兵庫県神戸市長田区対馬通1-3-17 TEL:078-671-1641 FAX:078-671-1643

【東京事務所】

〒146-0082 東京都大田区池上8-5-2 日興パレス池上101号室 TEL:080-8849-6985

<https://oshirox.jp>



HP



Instagram

# 慶應義塾大学 Yagami Innovation Laboratory (YIL)

横浜市港北区

設計・監理／安藤ハガマ一級建築士事務所  
施工／安藤ハガマ



南東側外観夕景 50m×5mの1スパン増築。細長い狭小区画をうなぎ(eel)の寝床のような空間として愛宕が湧くようにYIL(イール)と呼称し、内部を区切らず意匠で淡い境界線をつくっている

## 計画背景

YILは、文科省・日本学術振興会「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」に採択された建築計画である。大学の総合力を活かした社会的価値創造と循環を促すイノベーション施設として、学生の将来を後押しする教育プログラムや、産学連携・起業促進に向けた情報発信を推進し、人・組織・分

野を横断するつながりの拠点として、新たな価値を創出する場を目指した。

矢上キャンパスは理工系3年生以上が学ぶ場である。純粋数学からロボット工学まで扱う11の多様な学科があり、欧州4カ国との共同学位コースもある国際色豊かなキャンパスである一方、領域を横断して「もう1つの専門」を学ぶ機会の少なさが指摘されていた。

また、矢上キャンパスの敷地面積には限りがあり、建物が所狭しと並んでいたため、空間のゆとりが感じられる環境が求められた。

建設地はキャンパス奥にある既存の産学連携棟の前面にあった植え込みエリアで、50m×5mと奥行が限られていたため、既存部の機能を活かしながら細長い狭小区画にキャンパスの起爆剤となる施設の増築が求められた。



配置図  
縮尺1/5,000



南側外観 テラスへの大開口や屋内外一体化デザインによりキャンパスに開かれた施設



Eat&Learn 1階は「集う」をテーマに、人が集い、議論し、学び、挑戦するための仕掛けを散りばめた、うなぎの寝床のような細長い空間

### うなぎの寝床のような1スパン増築

「ひとつながりリノベーションが起こる場所」をコンセプトとし、1階は「集う」、2階は「試す」をテーマに、人が集い、議論し、学び、挑戦するための仕掛けを散りばめた。うなぎの寝床のような細長い空間を活かし「心地よいリアルな距離感のある一体空間」となった。一面ガラス張りの1階には、学内外のゲストを招いてカジュアルにコミュニティ形成ができるイベントスペースや、居心地よく休憩や談話ができるオープンスペースが広がる。スリット窓で採光を制限した2階は、ロボット操作やアプリ開発などテーマの異なる研究機器を常設し、学生が日常的に専門研究に触れ、気軽にアイデアを形にする機会を提供する。各エリアはひとつながりではあるが、家具や

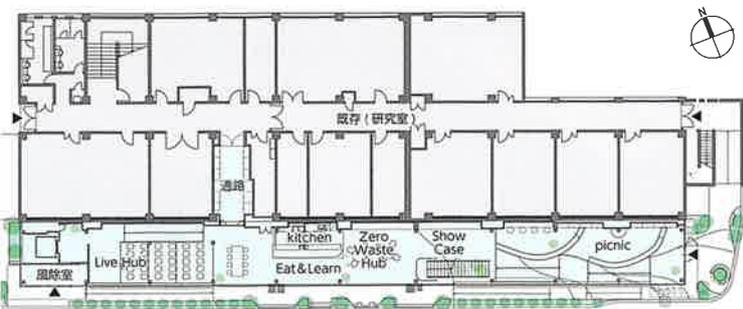
テクスチャ、1年を通じて四季を感じる花果落葉によって淡い境界線のある様々な雰囲気としており、誰でもどこかにお気に入りの場所を見つけられる。居場所があることで学生の滞在時間が増えて多様なコミュニティが生まれ、キャンパス全体に賑わいを与えている。開所後は学生と教職員が自然と立ち寄り、談話や作業をする様子を施設内のあらゆる場所で目にするようになった。複数の教員や学生による自発的な発想に基づいた教育プログラムが展開され、領域横断的な学習機会の提供が始まっている。奥まった立地を活かし人目を気にせずやりたいことができる場として、未来のキャンパス発展の起点となることを期待している。 (弓野将義/安藤ハザマ)



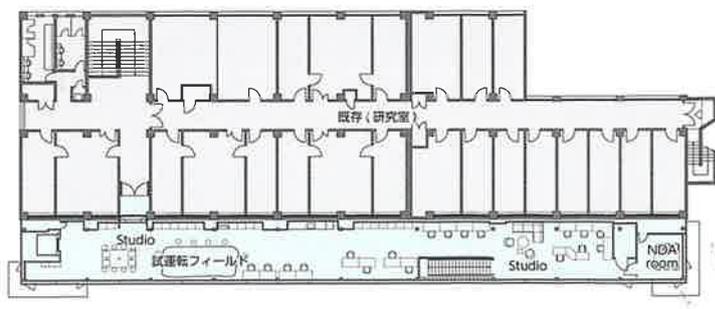
上/picnic 居心地よく休憩や談話ができるオープンスペース  
下/Live Hub 新概念の創出やアンメットニーズの解消を知る、リノベーションの入口



左/studio 2階は「試す」をテーマに。人とかかわりのなかで新しい力を身に着け気づきのある場 右上/試運転フィールド AIロボット犬の悪路走路実験 右下/NDA-room かくれウナギのいる壁面デザイン



1階平面図 縮尺1/600



2階平面図

**施工計画**

本工事は、産学連携棟(36棟)と呼ばれるRC造2階建ての建物に、長手50m短手5mのS造2階建ての建物(YIL)を増築する工事である。また、この増築工事による延焼ラインの変更から、向かい側の大学校舎26棟の外壁サッシを防火認定品に改修する工事や、他既存建物の解体

工事などを工期中にすべて施工しなければならなかった。大学敷地内での居ながら工事であるため、第三者に対する安全対策や研究機器の粉塵・振動に対する環境対策に留意した施工計画を立案し、慎重に施工を行った。限られた構内道路を使用する重機配置計画・搬入調整、大学行事・研究

室の予定を加味した上での工程を作成し、建物自体が小さいためラップ作業が難しく、細分化したエリア分けを軸とした週間工程ベースの月間工程を作成し管理を行った。大学教授と設計者が入念に打合せを行った完成パースに近づけられるように努めた。特に木ルーバーを天井にランダムに配置する「Live Hub」は、浮遊感を損なわないよう支持材を見えにくくするとともに、落下の危険性がないように固定方法について業者と入念に打合せを行った。想像以上の出来栄えという声を竣工式でいただいた時には喜びと達成感を感じた。大学関係者、設計監理者のご協力をいただき、厳しい工期であったが無事故・無災害で竣工を迎えられた。YILがイノベーションの拠点として人が集い、議論し、学び、挑戦する場所として今後ますます発展していくことを願っている。

(山村一仁/安藤ハザマ)



鉄骨建方状況



鉄骨建方完了時全景



**森本 通生**……もりもと みちお  
1982年神奈川県生まれ。2006年明治大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了、同年安藤建設(現・安藤ハザマ)入社。現在、同社建築事業本部建築設計第二部設計主幹、医療・福祉・教育チーム チームリーダー



**弓野 将義**……ゆみの まさよし  
1982年埼玉県生まれ。2007年早稲田大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了、同年安藤建設(現・安藤ハザマ)入社。現在、同社建築事業本部建築設計第二部設計主幹



**上野 桃**……うえの もも  
1995年大阪府生まれ。2017年立命館大学理工学部建築都市デザイン学科卒業、同年安藤ハザマ入社。現在、同社建築事業本部 建築設計第二部所属



**上田 陽子**……うえだ ようこ  
1971年福岡県生まれ。1998年第一園芸、2005年添田アトリエ、2008年光井純&アソシエイツ建築設計事務所を経て、2013年上田陽子ランドスケープ事務所設立



**山村 一仁**……やまむら かずひと  
1981年埼玉県生まれ。2007年日本大学大学院理工学研究科建築学専攻修了、同年間組(現・安藤ハザマ)入社。現在、同社首都圏建築支店所属

**慶應義塾大学 Yagami Innovation Laboratory (YIL)**

**データ**  
所在地 横浜市港北区日吉3-14-1  
主要用途 大学  
建築主 学校法人 慶應義塾  
設計・監理 安藤ハザマ一級建築士事務所  
担当/建築: 森本通生、弓野将義、上野 桃、調 恒治  
構造: 小袋雄亮 設備: 細田敬章、阿部里衣菜  
ランドスケープ 上田陽子ランドスケープ事務所  
担当/上田陽子  
施工 安藤ハザマ  
担当/建築: 山村一仁、藤城貴之、中村 晋、池田采生、須藤陽花、北野一慶 電気・空調・衛生: 長池 忍  
設計期間 2023年11月~2024年7月  
工事期間 2024年8月~2025年3月

**【建築概要】**  
敷地面積 78,373.07㎡  
建築面積 283.95㎡  
延床面積 575.40㎡  
建ぺい率 26.04% (許容60%)  
容積率 103.16% (許容200%)  
構造規模 S造 地上2階  
地域地区 第一種住居地域

**【学校施設】**  
学部構成 理工学部(3・4年)、理工学研究科  
学生数 3,736人  
教職員数 127人  
**【主な外部仕上げ】**  
屋根 アスファルト露出防水

**外壁** ECP横張り、現場塗装  
**建具** アルミサッシ、スチールサッシ  
**外構** 磁器質タイル、コンクリート洗い出し  
**【主な内部仕上げ】**  
1階 kitchen 床/磁器質タイル 壁/EP-G 天井/不燃化粧パネル  
1階 Live Hub、Eat & Learn、Show case 床/磁器質タイル 壁・天井/不燃木ルーバー、EP-G  
1階 Picnic 床/コンクリート洗い出し、タイルカーペット 壁・天井/EP-G  
2階 スタジオ 床/ビニル床シート 壁・天井/EP-G

撮影/川澄・小林研二写真事務所 佐藤大青

**協力会社**

電気設備工事、26棟空調調和設備工事	伸	陽
36棟空調調和設備工事、給排水衛生設備工事	武	蔵 野 工 業
鉄 筋 工 事	横	浜 共 立 鋼 業
金 属 工 事	ナ	ガ
ト ッ プ ラ イ ト 工 事	日	昌 グ ラ シ ス
押 出 成 形 セ メ ン ト 板 工 事	峰	栄 工 業
不 燃 断 熱 材 吹 付 工 事	サ	ン エ ム 工 業
塗 膜 防 水 ・ シ ー リ ン グ 工 事	カ	タ ヤ マ 工 業
ECP外壁/ハイブリッドカラーコーティング工法	○	S H I R O X
外 構 工 事	関	東 地 興
外 構 ベ ン チ ・ カ ウ ン タ ー 工 事	監	工 業

# 徳島文理大学 高松駅キャンパス

香川県高松市

設計・監理／教育施設研究所  
施工／西松建設



南東側外観

## 設計主旨

徳島市に本部を置き、2025年に創立130周年を迎える、徳島文理大学の香川キャンパスの全面移転プロジェクトである。

香川県さぬき市志度にある敷地約11.6haのキャンパス機能を、四国の玄関口であるJR高松駅の隣接地に移転し、5学部10学科3研究科の教室・研究施設・図書館・体育館・大講義室・食堂等を集約した「都市型キャンパス」として整備した。

横長の敷地の東西には、エントランス広場や菓草園を整備し、地域に開かれた都市空間を創出した。前面道路に面した空地と連続するエントランスのピロティ空間には、敷地の高低差を活かしたベンチを設置した。また、地元の名産である庵治石のさび色をモチーフとした外壁デザインにより、「街で学び、街に学

ぶ」都市型総合大学として、地域との調和と学生・地域住民との交流促進を図っている。施設は地上18階地下1階の高層棟（東棟）と地上8階の低層棟（西棟）で構成し、両間の接続部にエレベーター・エスカレーター・トイレなどのコア機能を集約した。高層棟は主に研究室・講義室を計画し、1階には食堂、最上階の18階には瀬戸内海を一望できる茶室と展望デッキを設けている。低層棟には、800席規模の音楽ホールとしても利用可能な大講義室、図書館、アリーナなどを計画し、屋上部分には人工芝の屋外運動スペースも整備した。

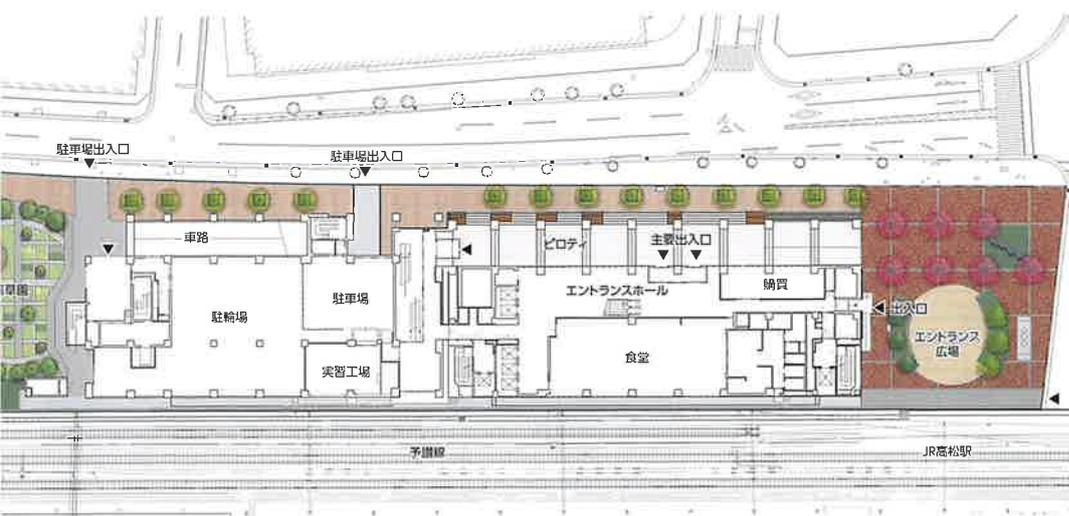
エントランスホールに面したガラス張りの食堂からは駅のホームを望むことができ、食事や交流の場として利用できる活気ある空間を整備した。図書館は建物の中央6・7階に設

置し、立ち寄りやすさに配慮するとともに、協働学習の場として整備することで、学びと交流の拠点となることを目指した。さらに、エスカレーターホールへのラウンジ整備など、学生の多様な居場所の充実を図っている。大講義室は「学生に本物のコンサート体験を」という学園の思いから、シューボックス型を基本とした本格的な音響空間を確保した。ルーバーによる透過天井を採用することで、舞台床から天井裏スラブまで約14mの高さを確保し、残響時間に適した十分な気積を確保している。目の前を電車が走行する厳しい条件であったが、地中外壁の防振対策やボックスインボックス構造による防振・遮音を施し、固定伝搬音を低減するとともに、用途に応じて残響時間を調整できる電動可変幕も設けている。

(木戸直規／教育施設研究所)



左上/南側より俯瞰\* 右上/北東側外観\* 左下/エントランスアプローチよりピロティを見る 右下/ピロティを見通す



配置・1階平面図 縮尺1/1,200



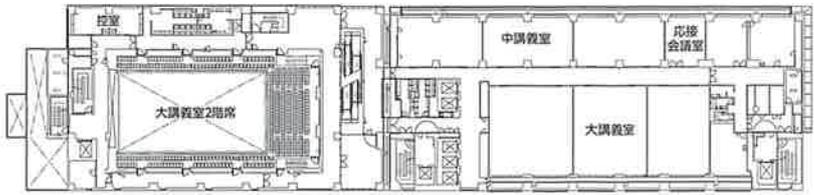
上/エントランス広場  
下/菜園



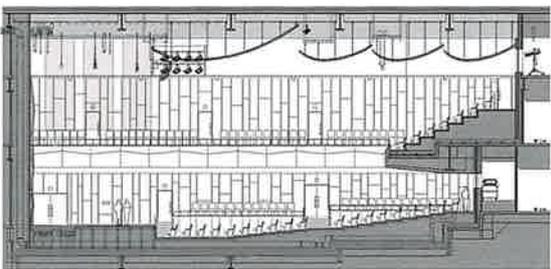
左上/1階エントランスホール吹抜 右上/1階食堂\* 左下/6階図書館の開架閲覧室 右下/18階茶室より外部を望む\*



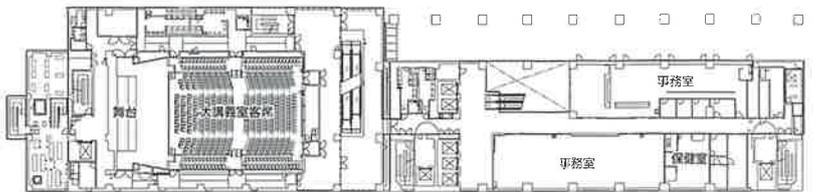
左/2階席より大講義室を見る\* 右上/低層棟屋上運動場\* 右下/8階アリーナ



3階平面図



大講義室断面図 縮尺 1/500



2階平面図 縮尺 1/1,200



**施工計画**

本工事の最大の特徴は、JR高松駅に隣接し、境界線まで700mmという近接条件下で、地下1階、地上18階・高さ88mを超える高層ビルの施工であった。このため、JR四国および駅利用者への安全配慮を最優先課題として、ネット等による垂直養生の常時設置や、最盛期には600名を超える作業員による徹底したサイト管理を実施した。臨海部特有の強風環境下において、建設資材の管理はもとより、飛散物対策として細部にわたる5S活動を徹底して行い、地下工事の際は、自社開発の傾斜監視クラウドシステム「オキッパ」によって線路への影響を常時監視した。近隣環境への配慮から、躯体工事期間における

土日祝日を全面閉所とした。工期への影響は大きかったものの、地域共生型キャンパスの実現を重視し、着工後に決断したものである。基礎工事では、江戸期の護岸構造物である玉石群という地中障害に対し、大型重機を増強して迅速な対応を行った。構造計画では、24基のオイルダンパー付き制振装置を配置し、主要構造部材である柱にはCFT構造を採用。充填コンクリートには設計基準強度 $F_c=60\text{N}/\text{mm}^2$ という四国では前例の少ない超高強度コンクリートを使用し、その品質管理に特に注力した。地上における施工計画では、大型タワークレーン「JCL700NK」を3基配置し、内部に仮設高速エレベータSEC-3000Hを1基設置して効率的な揚重計画を実現した。

約3年に及び工事期間中、安全・品質を最優先とし、日々の打合せによる情報共有と意識統一を徹底。協力会社を含めた一体的な施工体制の構築により、無事竣工を迎えることができた。

(国安 卓/西松建設)



上棟時の様子



上/7階ラーニングcommons 中/9階学生実習室 下/6階模擬手術室よりガラス越しにHCU実習室を見る

**徳島文理大学 高松駅キャンパス データ**

所在地 香川県高松市浜ノ町8-53  
 主要用途 学校(大学)  
 建築主 学校法人村崎学園  
 設計・監理 教育施設研究所  
 担当/総括:高松敏彦 建築:東出 明、木戸直規  
 構造:茂木博之 設備:杉岡興二  
 ランドスケープデザイン 鳳コンサルタント  
 担当/柳澤克彦、久保田貴大  
 音響 永田音響設計 担当/小口恵司、酒巻文彰  
 施工 建築 西松建設 担当/国安 卓、藤原弘幸  
 電気・機械 四電工 担当/電気:木本薫宏 機械:森 順一  
 図書館家具 丸善雄松堂  
 実験家具 島津理化  
 一般家具 高砂家具  
 体育器具 都村製作所  
 設計期間 2018年5月~2022年3月  
 工事期間 2022年4月~2024年10月  
 [建築概要]  
 敷地面積 6,350.94㎡  
 建築面積 3,663.52㎡  
 延床面積 38,118.43㎡  
 建ぺい率 57.68% (許容85.97%)  
 容積率 536.15% (許容536.33%)  
 構造規模 S造 一部SRC造 地下1階、地上18階  
 地域地区 商業地域、一部準工業地域  
 [学校施設]  
 学部構成 文学部・理工学部・香川薬学部・保健福祉学部・総合政策学部

学生数 約1,500人  
 教職員数 約200人  
 [主な外部仕上げ]  
 屋根 アスファルト防水 押えコンクリート  
 外壁 PCaコンクリート タイル打込  
 建具 アルミサッシ  
 外構 敷レンガ  
 [主な内部仕上げ]  
 講義室 床/タイルカーペット、ビニル床シート 壁/石膏ボード、塗装 天井/岩綿吸音板  
 大講義室 床/フローリング 壁/ケイカル板 木目調化粧シート張 天井/ウレタン充填アルミルーバー 木目調シート張  
 図書館 床/タイルカーペット 壁/ケイカル板 木目調シート張 天井/岩綿吸音板  
 アリーナ 床/スポーツ用ビニル床シート 壁/練付合板 天井/化粧ガラスウールボード

撮影/近代建築社 (K's Photo Works・野口兼史)  
 \*撮影/合田建築写真事務所



高松 敏彦……たがまつ としひこ  
 1956年熊本県生まれ。1979年東京工芸大学工学部建築学科卒業、1987年教育施設研究所入社。現在、同社専務取締役 設計本部長



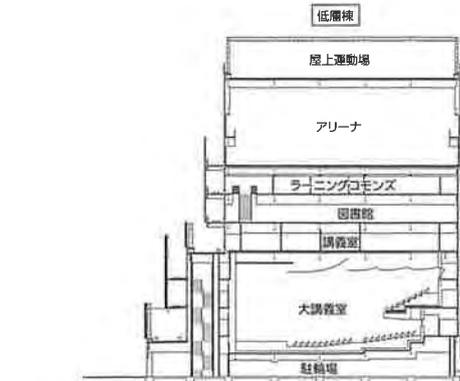
東出 明……ひがしであきら  
 1962年神奈川県生まれ。1984年東京工芸大学工学部建築学科卒業、1989年陶器二雄建築研究所、2006年東出明建築設計事務所、2018年教育施設研究所入社。現在、同社設計本部計画部主事



木戸 直規……きど なおき  
 1986年青森県生まれ。2010年千葉大学大学院工学研究科建築・都市化学専攻建築学コース修了、教育施設研究所入社。現在、同社設計本部計画部課長



国安 卓……くにやす たかし  
 1968年徳島県生まれ。1989年国立米子工業高等専門学校建築学科卒業、同年西松建設入社。現在、同社西日本支社建築統括部担当部長



断面図 縮尺1/1,200



**協力会社**

PCカーテンウォール工事	西 田 具 産
金属製建具工事	日鋼サッシュ製作所
ECF外壁/ブリックカラーコーティング工法	O S H I R O X
外 装 タ イ ル	有 田 窯 業
再生木材デッキルーバー	ハ ン デ ィ テ ク ノ